

【議案説明資料】

本資料は議案資料の説明です。

- ・議案1 登別市地域公共交通計画の評価（令和7年度）についてと併せてご覧ください。

議案1 登別市地域公共交通計画の評価（令和7年度）について

登別市地域公共交通計画は、各基本方針に基づき設定した施策の達成状況及び数値目標の評価を1年毎に行うこととなっており、国土交通省の地域公共交通計画等の作成と運用の手引きを参考に評価を実施しましたので、ご審議くださいますようお願いいたします。

●資料1 ページ

目標①公共交通の維持を目的とした便数・路線の見直し

目標②ライフスタイルに合わせた公共交通サービスの導入

■平日の公共交通利用者（1便あたり）

市内を運行している路線バスのうち、登別駅を通行する路線を抽出し、評価する指標です。

例年、路線バス事業者から乗降データ（各年10月16日のデータ）をご提供いただいていた評価していますが、令和6年10月1日のダイヤ改正以降、登別駅～登別温泉間の一部系統が前乗り前払いとして、整理券を使用しない乗車時運賃精算方式となったため、乗降データの取得が困難となりました。

同系統は、評価対象の約4割を占めていることから、本指標に沿った評価をすることが困難となったため、次期計画では、指標および評価手法の見直しを検討します。

なお、評価は困難ではありますが、路線バス事業者より参考データをご提供いただいておりますので、以下に記載します。

○便数（令和7年10月）

登別駅～登別温泉間の路線バス：53便

うち、乗車時運賃精算方式の便：20便

※上記に加え、月間計17便の増便

○VISAタッチ利用件数（令和7年10月16日分）

登別駅→登別温泉方面：36件

登別温泉→登別駅方面：45件

○平日の公共交通利用者（令和7年10月16日分・乗車時運賃精算方式の路線を除く）

総利用者数：929人

便数：33便

1便あたり利用者数：28人/便

集計方法が異なるため単純な比較・評価はできませんが、令和7年度目標値の1便あたり利用者数24人/便に対して、乗降データを把握できる路線では28人/便となりました。

乗車時運賃精算方式の路線は乗降データを把握できていませんが、前述の計17便の増便のうち15便が乗車時運賃精算方式の路線で発生している等、他の路線を上回る利用状況であることが推測されます。

■グリーンスローモビリティ利用者数（1便あたり）

■グリーンスローモビリティの市負担額

■グリーンスローモビリティの収支率

令和6年度第2回協議会にて審議いただいたとおり、自家用有償旅客運送の業務廃止、無償運行に移行したため、当該指標の評価は実施しません。

なお、今年度の利用者数については、以下に記載します。

○運行期間

令和7年4月26日（土）～10月26日（日） 計147日間

○乗車人員

総乗車人員：19,623人

平日1便あたり：20.5人/便

休日1便あたり：19.4人/便

無償化等の要因もあり単純な比較・評価はできませんが、令和7年度目標値の1便あたり平日：5.0人/便、休日：8.9人/便に対して、平日：20.5人/便、休日：19.4人/便となりました。

■人口当たりの公共交通市費負担額

市内路線バスの赤字額の一部を市が補助していることについて、当該補助額を登別市の人口で割返すことで登別市民1人あたりの負担額を算出し、評価する指標です。

令和7年度目標値の102円に対して16.5円であり、目標を達成しました。

令和6年度評価時には161円であったところ、約90%減と大幅に改善しましたが、これには令和7年4月実施の運賃改定等の影響があったと見られるため、今後も引き続き、状況を注視する必要があります。

■補助対象路線の経常収支率

市内路線バスの赤字額の一部を市が補助していることについて、経常経費に占める経常収益の割合を評価する指標です。

令和7年度目標値の58%に対して76.9%であり、目標を達成しました。

「人口当たりの公共交通市費負担額」と同じく、令和6年度評価時の51.1%から25.8%増の大幅な改善となりましたが、今後も引き続き、状況を注視する必要があります。

ります。

■公共交通説明会の実施回数

バスの乗り方教室を通じて、公共交通の認知度向上と利用者数の確保に努める指標です。

令和7年度目標値の3回に対して1回の開催であり、目標未達成となりました。

今後については、バスの乗り方教室を引き続き実施しつつ、人材確保に向けた取り組みに比重を置きたいと考えており、次期計画では、指標および評価手法の見直しを検討してまいります。

●資料 2 ページ

目標③乗務員不足に対応した輸送手段の確保

目標④既存移動手段を活用した支援体制の構築

■公共交通サービスの満足度

市が実施しているまちづくり意識調査を活用し、公共交通の満足度について評価する指標です。

まちづくり意識調査は3年に1度実施しており、直近では令和7年度を実施年度として令和8年3月6日（金）まで実施しておりましたが、調査結果の取りまとめに時間を要することから、令和8年度評価より反映し、評価を実施します。

■乗務員の確保

道南バス・室蘭ハイヤー・登別ハイヤーの乗務員数の増減について評価する指標です。

令和7年度目標値の465人に対して326人であり、目標未達成となりました。

今後は、持続可能な公共交通網を築くため、近隣自治体の取組等を参考に運転手確保策の検討を進めます。

今年度の本指標に関連する取り組みとして、国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局および北海道胆振地域公共交通活性化協議会がそれぞれ主催した退職自衛官向けの再就職説明会（計2回）に協力し、事業者として道南バス（株）が参加されたほか、運営担当として事務局職員が参加しました。

■新たな公共交通サービスの提供（累計）

バスマップの作成、バスロケーションシステム、デマンド交通の導入、割引サービスなど、新たなサービスの提供数を評価する指標です。

令和7年度目標値の2件に対してバスロケーションシステムの導入の1件であり、目標未達成となりました。

現在、事務局では、市公式Webサイトに掲載中のバスマップを最新データに更新するため、バス事業者と調整中です。また、登別市地域公共交通計画の改訂に併せた実証実験を予定しているほか、免許返納者等への移動支援策の検討を進めています。

目標⑤観光客に対応した移動支援

目標⑥公共交通空白地域における移動支援

■観光客向けの公共交通支援（累計）

観光客向けのバスマップの作成、Ma a Sや割引サービスなど、新たなサービスの提供数を評価する指標です。

令和7年度目標値の2件に対して、登別駅～登別温泉間への快速便導入、乗車時運賃精算システム導入の計2件であり、目標を達成しました。

関連する課題として、路線バスの最終便以降にJR登別駅に到着する特急列車の乗客が登別温泉へ向かう交通手段が不足していることから、今年度、公共ライドシェアの実証運行を実施したところであり、同実証実験の結果等を勘案しながら、引き続き、対策の検討を進めます。

なお、同実証実験の結果は取りまとめ中のため、令和8年度に改めて報告いたします。

■公共交通の人口カバー率

令和7年度目標値88%に対して、82.29%と目標未達成です。

評価等としては、カルルス路線の廃止を受けタクシー利用助成を実施しているほか、登別温泉のグリーンスローモビリティは自家用有償旅客運送を業務廃止したものの誰もが乗車できる無償運行としているため、カバー率算定に含めておりますが、他の公共交通空白地域の移動支援策が思うように進んでいない状況です。

関連する取り組みとして、来年度に登別地区において実証実験を実施する予定です。